

群馬県立大間々高等学校			学校評価一覧表（令和7年度版）			（別紙様式）		
羅針盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①選択科目を多く設定している教育課程に満足している生徒が80%以上である。	○選択科目希望調査を実施し、開講選択科目群や時間割を調整するとともに施設整備を行う。 ○選択科目説明会を実施し、実施科目内容の周知を図る。	A	A	A	・選択科目を多く設定している教育課程に満足していると答えた生徒は90.7%となっている。選択科目群の構成については調整を行い、選択科目については事前に説明会を行って選択の方法や教科担当者から内容の説明を行っている。多様な進路に対して、選択科目の検討が必要になる。 ・「SDGsみらい探究」の活動について77.1%の生徒が満足していると答えた。学年ごとにフィールドワークを行い、学習成果発表会により活動の振り返りを行っている。また、様々な視点から考え方を広げていくために外部講師の協力を得て講演会を行っている。学習成果を実感できる取り組みを進めていきたい。 ・校内の各教室にエアコンが整備され環境が整いつつある。現在北校舎を全面改修中である。生徒の満足度は70.6%であった。個人が持ってきたゴミについては持ち帰る活動を継続している。	・建学の理念より、地域社会に貢献できる人材を育てるという観点での学校運営が必要。存続していくための方策を考える。 ・「探究の時間」の内容を発信することが生徒の自信につながる。「探究の時間」の活動は、進路を決定していく中で評価されている。
		②「SDGsみらい探究」の活動に満足している生徒が70%以上である。	○探究活動にやりがいや達成感を得られるよう、フィールドワークや学習成果発表会を実施する。 ○地域や社会の外部人材等の協力を仰ぎ、講演会を実施する。	A	A	A		
		③充実した学校生活や教育活動のために環境整備や美化活動等が行われていると感じている生徒が70%以上である。	○清掃活動や美化活動を積極的に行う。 ○ゴミの減量化に取り組み、SDGsの活動を広げる。 ○アンケートの結果を活用し、改善を行う。	A	A	A		
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④授業によって新たな知識・技能が身についたり、思考が深まったと感じている生徒が80%以上である。	○授業改善のための研修会・教科会議を実施する。 ○授業アンケートの結果を活用し、授業改善を行う。	A	A	A	・授業によって新たな知識・技能が身についたり、思考が深まったと生徒の87.0%が感じている。また、職員研修や授業参観を行い、学習指導要領に沿って生徒の主体性の育成を目的とした授業改善を図っている。 ・授業中、説明する機会や自分の考えを発表する機会があると感じている生徒は90.0%である。今後も授業改善を進め、主体的な生徒の活動を引き出す工夫を進めていきたい。 ・意欲的に授業に取り組んでいると答えた生徒の割合は88.5%であった。保護者・職員の評価は約8割(83.5-80.0%)のため、生徒と保護者・職員の評価は昨年度より近づいた。	・時事問題等を題材に議論する機会があった方がよい。トップに行きたい生徒を伸ばしていく努力も必要。
		⑤授業中、説明する機会や自分の考えを発表する機会があると感じている生徒が80%以上である。	○授業改善のための研修会・教科会議を実施する。 ○授業アンケートの結果を活用し、授業改善を行う。	A	A	A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥意欲的に授業に取り組んでいる生徒が70%以上である。	○授業改善のための研修会を実施する。 ○授業アンケートの結果を活用し、授業改善を行う。	A	A	A		
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦各種会議等において、生徒に関する情報交換を週1回以上実施している。	○定期的に開かれる校務委員会や学年会議などで情報交換を行う。 ○気になる生徒についての情報交換を適宜行う。	A	-	A	・校務委員会や学年会議を定期的に行い、生徒に関する情報共有を行うことができた。今後も情報の交換は適宜行う予定である。 ・学校生活で部活動・生徒会活動等に積極的に取り組んでいると答えた生徒は65.1%であった。（昨年74.3%）ここ数年部活動加入率は伸び悩んでいる。生徒会活動や「井上浦造みらい塾」の活動に関心を持って取り組む生徒はいるので、活動内容を伝えていくことは継続して行う。 ・学校がいじめの防止や解決に向けての活動に取り組んでいると感じていると答えた生徒は71.0%であった。今後、より一層取り組みを強化し悩み相談やいじめの防止に取り組んでいきたい。 ・「悩み相談を親身になって対応してくれている」と感じていると答えた生徒は78.6%であった。昨年79.2%、今後も面談等で生徒と向き合う時間を確保し、生徒理解を深めていく。 ・2学期の1日平均遅刻率は1.8%で昨年度からは0.3%増えている。また、欠席について1ヶ月あたり3日に達した生徒は全体の8.8%となっている。学校でも指導を進めているが、保護者との協力が不可欠であるため、今後も保護者との連絡を密にとって対応していきたい。	・部活動は地域展開や週末休養日の設定の影響で部活動参加の意欲を低調なものにしている可能性はある。部活動は技術のみでなくその楽しさを伝えることが重要。 ・いじめは表面に表れにくいため、先生に伝えていくことが大事と思われる。 ・いじめ防止対策について残り30%の生徒に対しての数値を上げる工夫が必要。 ・欠席が1ヶ月3日の基準は多いと感じる。大学では半期15回の授業で3回以上休むと評価対象外となる。
		⑧学校生活で部活動・生徒会活動等に積極的に取り組んでいる生徒が70%以上である。	○新入生歓迎会で部活動の取り組みを発表する。 ○校内に部活動紹介ポスターを掲示する。	C	B	C		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑨いじめの防止や解決に向けての活動に取り組んでいると感じている生徒が99%以上である。	○各学期に学校生活アンケート調査を実施する。 ○年に2回いじめ防止アンケートを行い、必要に応じて面談をする。 ○生徒会中心にあいさつ運動やいじめ防止を呼びかけるポスターを作成する。	C	C	C		
		⑩「悩み相談を親身になって対応してくれている」と感じている生徒が80%以上である。	○二者面談、三者面談を通して生徒理解を深め、個々の生徒に対応する。	A	B	B		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪1日の平均遅刻者が5%以下である。	○家庭と連携をとりながら、生徒の怠惰による遅刻をなくす。 ○回数に応じた段階的指導を行い、生徒自身に自覚が芽生えるように指導する。	A	-	A		
		⑫欠席が1か月あたり3日に達した生徒が10%以下である。	○該当の生徒と面談をし、適切なアドバイスをする。 ○保護者との連絡を密にして協力関係を築き、指導に当たる。	A	-	A		
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑬「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を、外部講師等を活用して各学期に1回以上実施する。	○進路講演会（キャリアセミナー）を実施する。 ○生徒の希望に応じた企業・学校説明会、進路ガイダンスを実施する。	A	-	A	・2学期終了時点までにキャリアセミナー、進路ミニガイダンスを実施した。生徒の進路希望等も考慮に入れて進路行事を企画した。今後も「自己の生き方」と「将来の職業」、社会の状況等に関連させて進めたい。 ・進路実現に向けて積極的に取り組んでいると答えた生徒は84.1%であった。総合的な探究の時間とも合わせて、引き続き進路を考える機会を確保していきたい。新規指定校や就職先開拓は継続して行っていく。	・「先輩と語る会」は良い企画。3年生が新年度の1年生に語る機会があってもよいと思う。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑭進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	○進路希望調査の結果をもとに、面談等で利用できる資料等を作成し、担任に提供する。 ○新規指定校・就職先開拓を行う。 ○進路室を整備し、生徒・保護者が利用しやすい環境を作る。	A	A	A		
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑮「学校の教育活動の様子がよく分かる」と考えている保護者が80%以上である。	○SDGs井上浦造みらい塾の活動を中心に、地域支援等に関わるポスターやフライヤーを掲示・配布する。 ○学校WebページやSNS等を適宜更新するとともに、周知を図る。	C	C	C	・SDGs井上浦造みらい塾の活動を中心に、地域支援等に関わるポスターやフライヤーを掲示・配布する。 ・「学校の教育活動の様子がよく分かる」と考えている保護者は66.8%であった。学校Webページについては活動内容を伝える情報を増やしていく。また、Instagram等を利用して情報を伝える方法を検討していく。 ・中学生対象の学校説明会、オープンスクールでのアンケートでは「大間々高校の教育活動の様子」について分かりやすく伝わったと答えている中学生と保護者は98.4%（学校説明会）と97.4%（オープンスクール）であった。	・小中学校の細やかな情報伝達により、保護者のハードルが上昇しているのかもしれない。学年通信、学校通信は小中学校各校で実施している。情報発信の強化は必要。
		⑯「学校の教育活動の様子がよく分かる」と考えている中学生とその保護者が80%以上である。	○学校説明会やオープンスクールを通じて、校内の活動の様子を見てもらう。 ○出前授業などで中学校と関わる活動を実施する。	A	A	A		
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑰ICTを活用した授業に、満足している生徒が70%以上である。	○教職員が互いにICTを活用した授業を見せ合い、授業力向上を図る。	A	A	A	・ICTを活用した授業に、満足していると答えた生徒は87.9%であった。現在どの授業でもICT機器を利用している。職員同士の授業参観も行い、今後も効果的な利用方法を検討していきたい。 ・ICTの活用によって情報共有等の業務改善が行われたと感じていると答えた職員は100%であった。今後も情報の扱いには留意しつつ、ペーパーレス化や情報共有を進めていきたい。	・ICTの活用は必要不可欠になっている。これから生徒にとってどのような内容、活用の方法であれば満足度が上がるのかを考える。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑱ICTの活用によって情報共有等の業務改善が行われたと感じている職員が70%以上である。	○職員掲示板（kinako）や共有フォルダ、クラスルームを活用し資料の共有を図る。	A	-	A		